

会議名称	平成30年度 第2回立川市自転車等駐車対策協議会 議事概要
開催日時	平成31年2月7日(木曜日)午前10:00～12:00
開催場所	女性総合センター5階第2学習室
次第	議題 1 自転車走行環境整備 2 自転車等駐車場料金見直し 3 玉川上水駅周辺の自転車等対策 4 第4次自転車総合計画策定
配布資料	1. 次第 2. 事務局説明資料 3. 委員名簿
出席者	[委員]大森宣暁会長、鈴木美緒副会長、秋山廣委員、岩崎太郎委員 佐藤三男委員、古倉宗治委員、田中栄作委員、青山伸也委員、蛭間浩之委員 原清委員、長田裕太郎委員、山川滋委員、村野信二委員、佐藤篤史委員 [警視庁] 八幡義治
公開及び非公開	公開
傍聴者数	3人
会議結果	議題 1 自転車走行環境整備 ・東京都内における自転車交通秩序の整序化に係る警視庁の取組紹介 【意見・質問】 自転車ナビマーク等を設置するにあたり、幅員の基準はあるのか。(委員) ⇒原則、自転車が通行可能な路線であれば、幅員に関係なく整備していく。(警視庁)  自転車事故の原因を分析しているのか。(委員) ⇒国の研究で、歩道の逆走が大きな事故原因だと分析している。(事務局)  自転車ナビラインを設置したのち、青い自転車レーンなどの自転車走行空間整備をする際には、自転車ナビラインを撤去するのか。(委員) ⇒自転車ナビラインは自転車走行空間整備までの暫定措置と考えている。(警視庁)  属性による行動特性もあると思うのですが。(委員) ⇒属性も含め、調査を考えていきたい。(警視庁)  自転車は危険と判断すれば、歩道も走行できることを伝える取組はしているのか。(委員) ⇒課題と認識している。効果的な安全教育の手法を現在検討している。(警視庁)  通学路の歩道上で右側通行の子供と左側通行の自転車の事故が多いと感じているが、どうなのか。(委員) ⇒事故の特徴として多いと認識している。交通ルールの徹底に対する取り組みが課題である。(警視庁)  ・自転車走行環境整備マニュアル(案)説明 自転車ナビマーク等は連続性を重視し、幅員が狭い場所も設置すべきではないか。 ⇒設置路線の連続性の重要性は認識している。状況に応じて柔軟な整備をおこなう。(事務局)  タイヤの細い自転車が雨水ますの溝に挟まらない対策を検討すべきである。(委員) ⇒今後、雨水ますの規格が見直される予定と認識している。(事務局)  自転車ナビマーク等は自転車通行の目安であるということを広報すべきである。(委 ⇒広報の必要性は認識しており、交通ルールの周知・啓発は各方面の講義に取り入れている。(事務局)  安全対策がメインであるなら、マニュアルに基本的な考えを示すべきである。(委員) ⇒マニュアルの位置づけや視点について、さらに丁寧な記載にする。(事務局)

## 2 自転車等駐車場料金見直し

### 【意見・質問】

アンケート調査により、利用者の意向を探り、料金設定に反映すべきである。(委員)  
⇒大規模なアンケートは難しいので、指定管理者と協力し、社会実験の中で地域や施設特有の問題を検証していく。(事務局)

利用率の低い施設は料金改定の前に治安対策や施設の改修を検討すべきである。  
⇒現在、可能な対策は取ったうえで、料金改定をおこなうという考えである。(事務局)

施設の利用率を上げるために定期利用を検討すべきである。(委員)  
⇒料金改定の社会実験に定期利用枠の導入も検討していく。(事務局)

## 3 玉川上水駅周辺の自転車等対策

### 【意見・質問】

管理手法を含めて引き続き検討してほしい。(委員)

## 4 第4次自転車総合計画策定

### 【意見・質問】

今回はこの課題の検証を踏まえて、今後の計画の方向性を示す。(事務局)